

# 保護司会会報

発行 西多摩地区保護司会 会長 原島 悟 ◆ 編集 西多摩地区保護司会 広報部 ◆ 発行日 令和6年3月15日 ◆



羽村 八雲神社春季例大祭 稲荷神社神輿「多摩川渡御」(高橋武次氏出典)

新年あけまして  
おめでとうございます



西多摩地区保護司会  
会長 原島 悟

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。  
平素より、更生保護活動に格別

理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。  
本年、元旦早々に能登半島地震が起き、大きな災害が出ています。次の日には飛行機事故が起きてしまいました。  
昨年コロナが五類に入ったものの、気が抜けない状態です。世界には戦争地域があったり、気候変動などで危機的課題を抱えています。そんな中でも日本中が湧き上がったのがWBC野球の優勝でした。アメリカ大リーグで活躍する大谷選手が、全国の小学校にグローブを贈ったということもうれしい事でした。

西多摩地区保護司会も創立七十周年を迎えました。最大の課題である、サポートセンター及び羽村西口会議室の移転について、解決策がみえない状態が続いています。令和五年になって青梅市が市役所近くの工場跡地に、新市民ホール等の複合施設を、同じ場所に国が合同庁舎の建設構想があるという情報を入手しました。青梅市長、地元選出国会議員に面会し、保護司として活動拠点二ヶ所を施設の中に、必ず設置出来る様に要望しました。

今年も皆様には犯罪者、非行少年の改善更生、犯罪予防活動にご尽力いただきながら、健康で穏やかな一年になります様にお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

# 西多摩地区保護司会 新年会

○青梅分区 星野 和弘

令和五年度の新年会は、一月二十六日にあきる野ルピアにおいて、百十一名の参加で開催されました。

扇靖流の大正琴の音色に迎えられて四年ぶりの新年会が始まりました。

小野副会長の開会の言葉、原島会長の開会挨拶、来賓からは観察協会会長の代理吉野あきる野市副市長、土公東京保護観察所立川支部長、小山東京都保護司会連合会長からご挨拶をいただき、その他来賓の方の紹介がありました。

いづれも方々も、久々の開催と能登半島地震の被災者に哀悼の意を表されていました。

続いて、十名の新任保護司紹介があり、下嶋桐友会会長の乾杯により懇親会が始まりました。久しぶりのおいしい料理をいただきながらあちらこちらであいさつや談笑、観察官に声をかける人などにぎやかなひと時でありました。「西多摩の保護司になるといろいろな人に出会えて楽しいそうよ」という言葉を聞きました。

その後は、福引抽選、当たられた方おめでとうございます。

三人の監察官、八分区長による手締めと指田副会長の閉会の言葉で終了しました。

以前の営みが戻ったかのような気もしますが、コロナ禍を経て新たな活動の始まりが感じられる楽しい新年会でした。

なお、当日は能登半島地震義援金箱を受付に設置し協力して頂きました。



原島会長 挨拶



あきる野副市長 挨拶



東京保護観察所 立川支部  
土公支部長



東京保護司会連合会  
小山副会長



乾杯 下嶋桐友会会長



会場風景



オープニングセレモニー 大正琴



立川支部皆さんによる1のメ 左から  
鳥海主任観察官、尾崎主任観察官、大内観察官



各分区長による2のメ

# 東京更生保護事業関係者顕彰 被彰者

## 春の藍綬褒章(令和5年度)

野村 頼子 (青梅分区)

田中 康司 (あきる野分区)

對馬伸一郎 (日の出分区)

和田 敏信 (青梅分区)

清水 義朋 (福生分区)

杉浦 裕之 (瑞穂分区)

高橋 弘貴 (瑞穂分区)

吉野真智子 (福生分区)

岡部 秀敏 (あきる野分区)

高野 泰弘 (日の出分区)

渡邊 徹夫 (福生分区)

## 法務大臣表彰

小野 静江 (瑞穂分区)

## 関東地方保護司連盟 会長表彰

## 全国保護司連盟理事長表彰

川杉 英治 (青梅分区)

恒益 基樹 (青梅分区)

小林喜代子 (福生分区)

加藤 博 (羽村分区)

新井 俊數 (あきる野分区)

佐久間英明 (羽村分区)

山田 みな (日の出分区)

島田 芳雄 (羽村分区)

## 関東地方更生保護委員会 委員長表彰

内田 正敏 (羽村分区)

飯田 直子 (あきる野分区)

宇津木由廣 (青梅分区)

高橋 洋子 (青梅分区)

伊藤 健一 (青梅分区)

中野 秀之 (羽村分区)

小林 悦雄 (檜原分区)

志村 武保 (瑞穂分区)

小峰 一郎 (奥多摩分区)

加藤 育男 (福生分区)

菅原 弘貴 (青梅分区)

大澤 健男 (奥多摩分区)

平野ひとみ (あきる野分区)

佐々木庸喜 (羽村分区)

星野 護 (あきる野分区)

福田 米親 (青梅分区)

池田 政次 (青梅分区)

荻原 稔 (羽村分区)

佐藤 弘治 (福生分区)

荻原 稔 (羽村分区)

倉持 隆夫 (羽村分区)

## 東京保護観察所長 感謝状(家族功劳)

指田 洋子 (羽村分区)

## 東京都保護司会連合会 会長表彰

久保 一利 (青梅分区)

星野 芳博 (青梅分区)

岡本 栄 (福生分区)

戸田 幸子 (あきる野分区)

羽村 薫 (羽村分区)

森田 雅枝 (福生分区)

正親 和代 (羽村分区)

## 藍綬褒章を受けて



野村 頼子 (青梅分区)

令和五年春、藍綬褒章を受賞させていただきました。これまで多くの皆様にご指導ご支援賜りましたこと、改めて心より御礼申し上げます。

保護司としての二十五年の月日は、私の中に目に見えない多くの財産を残してくれました。対象者となった人達は様々な事情を抱えています。それでも無事保護観察を終了していく姿を見ると、心からのエールを送りたくります。そのような中で常に謙虚な心を持つことの大切さを学びました。

ここ数年の社会情勢の変化と共に、犯罪や非行の内容も大変複雑になってきました。保護司は対応に悩まされますが、微力であっても重要なボランティアです。また新たな気持ちで定年までの日々を務めていきたいと思えます。

### 井上信治議員表敬訪問

青梅に建設予定の複合施設に「更生保護サポーターセンター」を  
一月六日、衆議院議員会館を訪問

青梅市が同市東青梅一丁目に建設予定の複合施設の一部に「更生保護サポーターセンター」の設置を求める要望書を提出しました。

この場所はケミカルコンデンサー跡地で、青梅市が市民ホール等複合施設を、国が合同庁舎（税務署、労働基準監督署、ハローワーク）の建設をそれぞれ構想しています。

更生保護サポーターセンターを設置してほしいとの要望について、応援すると話をいただきました。



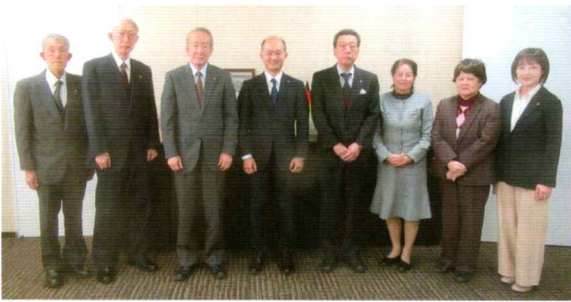
### 青梅市長表敬訪問

総務部長 對馬伸一郎

十二月二十日、此度新たに青梅市長に就任された大勢待利明市長を、正副会長五名と本橋分区長、島田副分区長と共に訪問しました。

日頃からの行政（保護観察協会）の支援、協力の御礼を伝えると共に、西多摩地区保護司会にとって積年の懸案事項である西口会議室使用期限のことや、サポーターセンター機能向上のための移転に関する案件の解決に向けた支援をお願いしました。

大勢待市長からは、常日頃から体力の維持・向上に努めていることやサッカー協会こと等、様々なお話を伺うことができました。



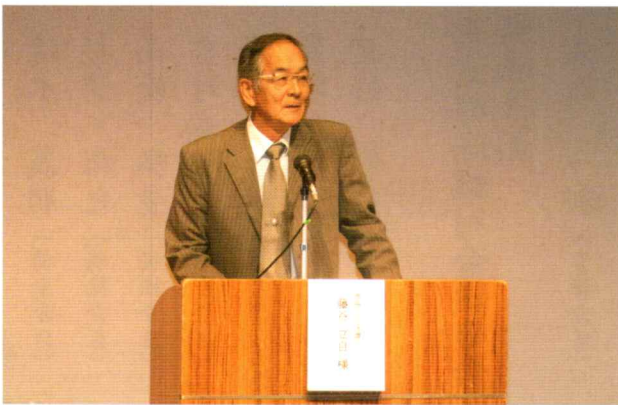
十二月 議会の最中にも拘わらず貴重な時間を設定して頂いた市長はじめ青梅市健康福祉部の方々に心より感謝申し上げます。

## 実務研修体験談

○羽村分区 羽村 薫

十二月五日、羽村コミュニティセンターホールにおいて、青梅分区の藤谷保護司、福生分区の郡司保護司による事例発表会が行なわれました。お二人とも十年以上のご経験がある方々です。

強く印象に残ったこととして、藤谷保護司の生活意識のあり方です。①生活リズムをもつ②新しいことに挑戦。ご自身のこと以外にも、対象者に知識があり、理解



不足を感じる時は勉強する。③多くの方と関わる。④家庭円満等ご自身の生活を整えられているとのこと。また、郡司保護司のお話として、関係部署との処遇会議開催や、地域連携の大切さを伺いました。そして、保護司の仕事は、保護観察所の黒か白の判断と違い、グレーが多いということ。このグレーの部分に、保護司自身の生き方や、考え方が反映されることを改めて感じました。とても貴重なお話ありがとうございました。



## 地域活動推進講演会

青梅分区 福田 米親



令和五年度講演会は、女性暴走族の総長の経験や少年院送致も経験され、現在はNPO法人セカンドチャンスで活動されている中村すえこ氏を講師にお迎えしご講演頂きました。中村氏はセカンドチャンスの活動の中で、少年院出院者との交流会を実施。全国少年院での講話は既に四十四か所に及び残りは二か所。高卒認定を取り通信制大学に入学し、社会科の教員免許を取得。一年後高校の教員となり社会科を教える。今では一年生の担任も任されるとい

う、思いも寄らない生活を送る。

また中村氏は、少年院の実情を訴える思いからドキュメンタリー映画も製作した。記憶と記憶2、この映画に込めた思いは「社会を変えていきたい」という事。

今回の講演は「人は変わる」「変わらなければいけないのは社会の方だ」という、中村氏の一貫した強い思いが伝わって来る内容でした。講演会終了後、皆様から映画上映の要望が寄せられています。地域活動部では、来年何らかの形での上映を企画したいと考えていますので、どうぞご期待ください。



## 社会参加活動について

地域活動部副部長 本橋 義雄

十一月十九日(日)、あきる野市内の特別養護老人ホーム「麦久保園」にて、「社会参加活動」を行いました。

保護観察所から指名された対象者二名と地域活動部所属保護司二名で、休憩をはさんで約二時間、ベッドのシーツ交換作業および施設内喫茶室で利用者さんがくつろぐ時間帯での話し相手などの活動を行いました。



施設は、現在百十名の入所利用者があり、職員も国の配置基準に基づき利用者数の約半数の方が介護や看護の仕事に当たっているとのことでした。

活動終了後、対象者からは、①このような施設は、外から見たこととはあるが、中に入ったのは初めてで、こんなに多数の方がいることに驚かされた②私達の日常生活の話し声より、多少、大きな声で話さないと通じない等の感想が話され、貴重な体験となりました。



# 各分区視察研修

## 川越少年刑務所参観

○青梅分区 笹倉 眞一郎

参加者は二十三名と少し寂しい研修でしたが、青梅分区では四年ぶりに視察研修を実施出来ました。

十二月十九日(水)青梅市役所前を九時二十分に出発。川越の町並みを少し散策し、午後一時三十分から、川越少年刑務所の施設参観をさせて頂きました。

刑務官の説明が有り、現在二十歳から二十六歳を中心に八百三十名が入所していて、社会復帰を第一に出所後の就職に生かせるよう、教育・支援に力を入れているとのことでした。これらの説明を受け、普通に生活をしていれば体験できない、受刑者の方達の生活環境や施設での状況を見せて頂きました。

改めて受刑者が出所し社会復帰するには、反省の気持を持ち続ける覚悟が必要で、受け入れる社会はそれを承知して、お互いに気遣い合わなければ、上手く行かないように思いました。



## 水戸刑務所視察研修

○福生分区 岡本 栄

十一月三十日福生分区十五人が参加して茨城県ひたちなか市にある水戸刑務所を視察しました。

水戸刑務所では、田中統括官から沿革、組織、施設の説明をして頂きましたので、その内容を紹介します。

1 水戸刑務所は、平成二十年三月まで、水戸少年院でしたが、収容分級の変更に伴い、現在の名称に変更され、水戸、土浦、下妻拘留支所の三ヶ所を所管し、敷地面積は、東京ドームの約一、二個分の広さで収容定員は五六四名、刑期十年未満の犯罪傾向の進んだ日本人男性を収容しています。

2 水戸刑務所では、作業と職業訓練として木工、金属等の生産作業、職業訓練として、木工、溶接、フォークリフト運転科、ビジネススキル科(パソコン基礎課程)を実施しています。特に木工作業では地元の伝統である工芸品の獅子頭や救急箱を製作しています。

3 その後、生活している同居房や作業をしている工場を視察させて頂きました。

工場内に入ると何となく張り詰めた雰囲気を感じられ、安全面を一番に刑務官の監視のもと手を止めることなく黙々と作業に従事していました。

獅子頭や救急箱を無我夢中で丁寧に作業に打ち込んでいる姿がと

でも印象的でした。

4 毎年八月と十一月に高等学校卒業程度認定試験を受けられる制度があつて水戸刑務所でも十人前後が合格しているとの事でした。

5 独居房は狭いながら明るく、昔から思っていた暗いイメージとは違い過ぎて衝撃的に感じました。視察後の質疑応答では、沢山の質問をさせて頂き勉強になりました。四年振りの研修でしたが、保護司としていかに再犯させないように立ち直させるか重要な役割ということを改めて考えさせられた大変有意義な視察研修でした。



## 多摩少年院視察研修

○羽村分区 内田 正敏

十一月二十九日、保護司十四名と事務局の計十五名で秋晴れの中、多摩少年院に向かいました。十四時から山崎教育調査官から分かりやすい概要説明をして頂きました。多摩少年院は、日本で最初の少年院で一九二三年に発足し、今年に創立百周年を迎え、記念式典等を行ったそうです。職員数は九十四名、収容人員は八十九名(定員百七十四名)です。少年の非行は、傷害、詐欺等

です。教育内容は、新入時、中間期、出院準備で段階教育を行っており、出院時に社会復帰支援のため、帰住調整から就労支援まで行っています。

説明の後、院内を案内して頂き室内、構内とも清掃が行き届いており、パソコン教室は大変充実していました。見学の後で担当教官も入り、質疑応答を行いました。十六時前に多摩少年院を出て帰路に着き、羽村市コミュニティーセンターで第三回保護司会を行い、充実した一日を過ごしました。



## 千葉刑務所視察研修

○あきる野分区 岡部 秀敏

晴天に恵まれた令和六年二月二十七日朝、あきる野分区保護司二十名は千葉刑務所の視察研修に貸し切りバスで向かいました。

まず、同県内にある成田山新勝寺に向かい、到着後、昼食を摂り、新勝寺を拝観し目的地向かいました。到着後、約一時間三十分、施設担当者による概要説明と、担当者の案内による施設見学の後、質疑応答を行いました。視察研修の時間はあっという間に終了しました。

コロナ禍から今日までに、新たに保護司を拝命した新人も含め、参加した保護司のこれからの活動に大い

に役立つものとなったと思います。

千葉刑務所は東京矯正管区所管の刑事施設で、遵法精神や自律心を養わせ、健全な社会生活が送れるよう各種の訓練や教育を行っている施設です。収容分類はL A級・A級で刑期十年以上の初犯者（重罪初犯者）を収容する男子刑務所で、収容定員は千三百四十二人（現在の収容人員は千四十六人）とのことでした。



### 紫翠苑視察研修

○瑞穂分区 小山 幸久

今回、瑞穂分区視察研修に初めて参加させていただきました。

保護司になって四年と六カ月、コロナ禍で保護司の啓発活動も中止あるいは縮小する中で、四年ぶりの視察研修でした。

十一月二十一日天気は恵まれ、保護司八名、事務局の計九名で、八王子の紫翠苑に行ってきました。ロングサイズのマイクロボスで狭い道をくねくねとスムーズに曲がる運転手さんには女性陣から大きな拍手があり、やっつのおもいで山の上の紫翠苑へ到着しました。

二年前に新築された施設はとてきれいな建物でした。紫翠苑は女性

専用の更生保護施設で現在は十四名が入所しており、設立以来六十年以上が経過しており、なんと私の年齢とあまり変わらないのでビックリ。

私たち保護司は対象者と月に二回程度の面接ですが、「紫翠苑では、毎日が保護観察である」ということが特に印象に残りました。また、町内会と一緒に利用できる会館が同じ敷地内にあります。この会館で地域住民と協力して各種行事を行っているようですが、そこに至るまでには大変なご苦労があったこと等のお話を施設長から伺いました。

屋上に上がると、三六〇度のパノラマが広がり、東には都庁やスカイツリー、西には富士山、北には秩父連山など素晴らしい景色を見ることが出来ます。

入所者は衣類や生活用品が不足しており、今回各保護司に呼びかけ女性用の衣類や生活用品をたくさん提供したところ、施設の皆様から大変喜ばれました。入所者が独立するときに、衣類のほか冷蔵庫や洗濯機、ストーブなどが必要となるので、もし不要なものがありましたら、ご提供くださると助かると施設長さんがおっしゃっていました。

今回、大変お忙しい中、快くお引き受けくださった施設長さんへ



はじめ職員の皆様に感謝いたします。改めて保護司としての役割と自覚を再認識することができ有意義な視察研修になりました。

### 日の出・檜原視察研修

○檜原分区 野村 雅巳

十一月九日、日の出・檜原分区保護司・日の出更女・事務局十四名で千葉県市原市にある市原青年矯正センターを訪問しました。

市原青年矯正センターは、旧市原学園（少年院）の施設・設備等を転用した刑事施設として、令和五年に開設されました。知的障害・発達障害などがある若年受刑者を対象とした全国初の刑務所であり、十六歳以上二十六歳未満の男性受刑者で、犯罪傾向が進んでいない刑期五年以下の人などを収容する施設です。収容定員は、七十二人で、全国で最も小さい施設で、令和五年十一月に収容を開始しました。ここでは心理カウンセリングや医師の診断などを元に、犯罪傾向や障害の特徴などを踏まえて、社会に

適応するための訓練が必要と認められた人が収容され、基礎的な生活力を身につけ、出所後の社会復帰を目指しています。



### 水戸刑務所視察研修

○奥多摩分区 大澤 健男

晴天の十一月二十九日、保護司六名と町担当課長にて、水戸刑務所を視察しました。

澁谷庶務課長から概要説明を受け、所内を見学。収容棟廊下のストロブとエアコンが印象的でした。

この施設の対象受刑者は、刑期十年未満の犯罪傾向の進んだ日本人男子で、収容定員は五百六十四名、当日の収容人数は三百七十五名（定員の七割弱）と平成十九年の六百八十七名をピークに減少傾向にあるとのことでした。しかし、犯罪傾向が進んだ受刑者というだけあり平均入所回数は五回（最多は二十一回）であるとのこと、現実の厳しさを感じました。

所内では職業訓練のほか、再犯防止のための改善指導・教科指導を行い、更にハローワークとの連携による就労支援に尽力されていました。

また、コロナの影響も多大で、感染症対策以外に刑務作業に適した仕事の受注にも苦心しているとのことでした。改めて就労の重要性を認識した大変有意義な視察研修でした。



# 会務報告

## 退任保護司 (敬称略)

(令和六年一月三十一日付)

長い間お疲れ様でした。

今後ますますお元気で活躍くださいませよう祈念申し上げます。

**福島 幸之** (青梅分区)

(在職年数十二年)

**柳内 昭治** (青梅分区)

(在職年数十四年)

## 新任保護司 (敬称略)

左記の方々が委嘱されました。今後のご活躍を期待いたします。

(福生分区)

**天野 久徳**

二月一日発令



(福生分区)

**石川 幹子**

二月一日発令



(羽村分区)

**清水 康子**

二月一日発令



おめでとーございませす

## 法務大臣表彰

小野 静江 (瑞穂分区)



## 社会を明るくする運動

### 作文コンテスト表彰

東京更生保護施設連盟会長賞

羽村市立栄小学校 六年 増田 心咲

題名 私達にできること

### 佳作

羽村市立栄小学校 六年 小川 ほの香

題名 明るい社会への第一歩

### 奨励賞

羽村市立栄小学校

羽村市立羽村第二中学校

## 能登半島地震義援金

金115,487円

東京都保護司会連合会へ  
振込みました。

ご協力ありがとうございます

ございました。

## 編集後記

新たな年を迎えたというのに、元日から能登半島地震で多くの犠牲者が、翌日には羽田空港で飛行機の衝突事故が発生し、波乱の幕開けとなってしまいました。

辰年には過去に大きな出来事が発生しております。1868年戊辰戦争、1904年日露戦争、1952年日米サンフランシスコ講和条約、1964年東京オリンピックなど日本にとって辰年は大きな節目の年、今年はおリンピックイヤーです。年初の不幸な出来事を払拭する活躍を大いに期待したいです。

コロナ前ですが「能登400」というサイクリングイベントに参加しました。能登半島一周の400キロを走破します。宿泊した民宿は今回の地震で崩壊してしまいました。能登の自然豊かな風景、趣のある街並み、地元住民の温かなおもてなし、沿道での大声援は忘れられません。早期に復興しこのイベントが開催されることを祈ってやみません。一日も早い復興を願い会報141号をお届けいたします。

(広報部 郡司 光志)